

蕁麻疹

蕁麻疹は掻痒（かゆみ）を伴って突然に出現し、境界明瞭な円形から地図状の隆起した膨疹を特徴とする疾患です。通常は一過性であり数時間以内に消失します。しかし、慢性的に反復して出現する蕁麻疹もあり1か月以上続くものは治療困難な場合が多くあります。次のような様々な原因があります。原因が分からないものもあります。

蕁麻疹の原因

- ①食事性：魚介類、卵、牛乳、肉類、酒
- ②薬剤性：抗生物質、ワクチン、各種血清
- ③生活環境因子：ハウスダスト、ダニ、カンジダ
- ④物理的原因：機械的刺激、温熱、寒冷、光線刺激
- ⑤病巣感染性：扁桃炎、副鼻腔炎、う歯（虫歯）
- ⑥心因性：精神神経的な障害による

西洋医学的治療：原因の除去と抗アレルギー薬や抗ヒスタミン薬などが用いられます。

抗ヒスタミン薬（ヒスタミンのH1受容体の遮断薬です）：ポララミン、アタラックス、アレグラなどがあります。副作用は眠気があります。

抗アレルギー薬（肥満細胞からの顆粒遊離を抑制する薬です）：インタール、ザジデン、アゼプチンなどがあります。副作用はあまりありません。

漢方薬では体質に応じて処方を選択します。じんましんに対する漢方薬としては、次の様な漢方薬があります。

○体力がある場合（実証）

- ・大柴胡湯：便秘や季肋部に苦満感がある時に用いられます。
- ・茵 蒿湯：口渇と尿の不利と便秘を目標として用いられます。
- ・葛根湯：肩凝りや腹部の筋肉の緊張が良好なものに用いられます。

○体力ふつうの場合（中間証）

- ・十味敗毒湯：季肋部に苦満感がある時に用いられます。
- ・茵 五苓散：口渇、尿減少、浮腫に黄疸がある時に用いられます。

○体力がない場合（虚証）

- ・桂枝加黄耆湯：体質虚弱で汗をかきやすい時に用いられます。

・真武湯：冷え症で体質虚弱の時に用いられます。

・香蘇散：食餌性の蕁麻疹によく用いられます。